

伝統文化映像教材の開発とその評価

菅沢 茂・森 和夫・浅井 勲

Teaching-Materials Development using the Animation
about Japanese Traditional Culture, and its Evaluation

Shigeru Sugasawa, Kazuo Mori and Isao Asai

平成 20 年 9 月

芝 浦 工 業 大 学

伝統文化映像教材の開発とその評価

Teaching-Materials Development using the Animation about Japanese Traditional Culture, and its Evaluation

菅沢 茂¹, 森 和夫², 浅井 勲³

Shigeru Sugasawa, Kazuo Mori, Isao Asai

This research tended to extract the theme to the Daito-ryu-jujutsu (yawara) conveyed to the upper samurai of the old Aizu han, and tended to establish the educational method which aimed at the systematization and modernization paying attention to the thought of the refined operation, self-defense, and health, moral culture, etc. It decided to verify the possibility through creation of animation teaching materials and a manual, and a skill analysis table in the current fiscal year as the trial. While unveiling the tradition plan about the old martial art made difficult concrete so far, I want to develop the simple text for education, and image teaching materials. I want to develop this and to suppose that it spreads through the school, home, and social education organization of an area from now on.

Key words : CUDBAS (Curriculum Development Based on Ability Structure), Animation, Japanese traditional culture, Power Point, Teaching-materials.

1. 研究目的

本研究は、2007年度芝浦工業大学プロジェクト研究助成に基づく研究「古典柔術技能に関する教材の開発研究」(研究代表者:菅沢茂)の一環で、筆者らが2007年度の研究テーマとして行うものである。

伝統文化理解教育の推進は、2006年12月の教育基本法改定に伴い、国や地方公共団体において重要な教育行政施策となってきた。わが国の伝統文化が国際理解教育の一環として、次世代に継承され発展する意義は大きい。しかし、現在のわが国の学校教育において伝統文化教育の導入は遅れ、かつ多くの学すべき内容が失われてきている。また、児童生徒用の適切な伝統文化教材も不足しており、例えば、柔術・剣術・弓術などの古武道をはじめ切花、茶の湯などの生活文化に至るまで、明治維新を機に衰退してきたといえよう¹⁾。これらは主に形稽古を通して技の修得と心の修養を図る方法を取り、形式知(技術)と暗黙知(技能)を独特の口伝技法によって、ごく限られた対象に伝承している。現代の学校教育においても、形や礼儀作法の修得を通して豊かな人間性と社会性の育成を図る上で、重要な意義と役割を担うものと考えられる。

2009年度から移行実施される学習指導要領においても、改訂で充実すべき重要事項の一つに「伝統や文化に関する

教育の充実」が挙げられている²⁾。すなわち、「国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、そのよさを継承・発展させるための教育を充実することが必要である。」と述べ、各教科等の重点課題が指摘されている。また、特に保健体育科では、武道の指導を充実し、我が国固有の伝統や文化に、より一層触れることができるようにすることが重要である、とされている。

しかし、特に古武道における伝承の困難さは、熟練者の持つ暗黙知をスムーズに移転できないことにあり、一般成人用図書に比べても、児童生徒用のより分かりやすく使いやすい教材の開発が困難であったものと考えられる。このため、これまで経験や勘に頼ってきた技能伝承の方法について、科学的で合理的な手法を取り入れることが大切であり、それによって難解な古武道に関する指導計画の作成及び教育用テキストや映像教材の作成がより早く、適時適切に行えることになる。その結果、学校教育の場で、技術・技能はもとより、思いやりの心や規範意識、自尊感情の育成など古武道による技と心の教育は飛躍的に普及すると考えられる。さらに、この方法論は武道に限定せず、地域の伝統文化や工芸美術などの技能教育分野に適用が可能であり、その発展の可能性は広がっている。

本研究は、旧会津藩の上級武士に伝えられた大東流柔術(やわら)³⁾にテーマを絞り、その洗練された動作、護身と健康の思想、精神文化などに着目し、その体系化と現代化をめざした教育方法を確立しようとした。その試みとして今年度は動画教材・マニュアル、技能分析表の作成を通してその可能性を検証することにした。具体的には、これま

1 工学部教職課程 Faculty of Engineering, Shibaura Institute of Technology

2 ㈱技術・技能教育研究所 Laboratory of Skill & Technology Education

3 旭硝子株式会社モノづくり技術強化室 Asahi Glass Co., Ltd, Quality Manufacturing Skill Enhancement Group

で難解とされてきた古武道に関する伝承計画を明らかにするとともに、簡便な教育用テキストや映像教材を開発したい。これを発展させ、今後は地域の学校、家庭及び社会教育団体に普及することとしたい。

2. 研究方法

古武道としての大東流柔術に関する指導計画を編成するため、CUDBAS (Curriculum Development Based on Ability Structure 職業能力の構造に基づくカリキュラム開発手法。以下、「クドバス」という。)を用いることにした⁴⁾。この手法によって熟達者の能力を実証的に分析し、これをもとにプログラムを開発し、教材を作成することにした。これによって、口伝技法の評価、プログラム作成、教材作成等の開発を短期間で実証的・科学的に行うことができる。クドバス手法は社会人対象の職業教育に用いられてきたものであり、身体教育及び道徳教育分野に活用するのは、初めての試みである。

本研究は以下に示す3ヶ年全体計画のうち、2007年度計画として実施するものである。

2.1 2007年度計画

- (1) 新渡戸稲造著『武士道』による柔術(やわら)の定義⁵⁾を踏まえ、大東流柔術における技能の形式知化及び指導計画作成に必要な工程表を検討する。
- (2) 大東流柔術の一派である「日本伝(大東流三大技法)合気柔術恒元会」の教伝課程と伝位について調査し、基本的な技術、技能項目について分類整理しておく。
- (3) 中学校学習指導要領における体育分野等をあらかじめ調べる。
- (4) クドバス・チャート(試用版)を作成し、それに基づき技能分析表を作成する。(注:クドバス手法は名刺大のカード各自30枚程度を用いて記入し、内容を検討してマトリクスに整理するものである。)
- (5) 中学生対象の大東流柔術の教育内容を精選した指導計画案、テキスト及び試用版映像教材を作成する。
- (6) アンケートによる映像教材の評価をおこなう。

2.2 2008年度計画

- (1) 研究協力者による高校生対象の技術・技能項目のリストの作成
- (2) クドバス・チャートの作成
- (3) テキスト及び試用版映像教材の普及実施・点検・評価による教材の精度向上

2.3 2009年度計画

- (1) 指導者対象の大東流柔術伝承マニュアルの作成(マニュアルの構成:①技能分析表, ②典型課題・学習書, ③評価シート, ④学習用ビデオ)
- (2) 試用版教材の普及公開, 点検・評価によるテキスト及び映像教材の更新, 完成版の作成及び普及公開

3. 結果とその検討

3.1 作業工程表の作成

現代柔道や合気道とは異なる特質を持つ古武道、大東流柔術における技能の形式知化及び指導計画作成に必要な作業工程表を作成した。(表1参照)

表1 作業工程表

Table 1. Operating schedule

	1. 教材開発テーマの設定	2. クドバス・チャートの作成	3. 映像教材づくり(PPTによる)
工程項目	<ul style="list-style-type: none"> ○伝承すべきテーマの設定 <ul style="list-style-type: none"> ・新渡戸稲造『武士道』の中の「柔術」の解説文の検討 ・学習指導要領における現在の競技武道のねらい、方法、内容について分析し、古武道教育と対比させる。 ○競技武道とは異なる技能を伝える。 ○柔道、剣道及び合気道との差別化、静かなる稽古。 ○形の学習が徳育につながる伝統的な教育形態、文武両道 ○ポイント <ul style="list-style-type: none"> ・技(礼儀や形)の習得 ・道徳性の涵養 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生を対象とするクドバス・チャートの作成 ・2年～10年経験者による作成 ・技の習得と徳性の向上 ・技の段階的習得 ・徳性の種類(分別) 	<ul style="list-style-type: none"> ○技能分析表の作成 ○工程別技能分析表の作成 ○映像撮影 ○技能分析表の文章と撮影した画像をPower Pointに貼り付ける。

3.2 中学校学習指導要領の吟味

2007年度の研究では、まず中学生用の教材を開発することとし、中学校学習指導要領解説書保健体育編、特別活動編、道徳教育分野について吟味した。例えば、体育分野では、武道が選択履修に位置付けられ、かつ現代の柔道、剣道、相撲のみが例示されている。また、「武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化として伝統的な行動の仕方が重視される運動で、相手の動きに対応した攻防ができるようにすることをねらいとし、自己の能力に適した課題の解決に取り組んだり、勝敗を競い合ったりする運動である。また、礼儀作法を尊重して練習や試合ができることを重視する運動である⁶⁾。」とあることから、学校教育における武道は、形の習得よりも試合や競技に重きを置いていると言える。

3.3 大東流柔術の伝位と内容の分類整理

現代武道である柔道や合気道の源流とされる大東流柔術の一派である「日本伝(大東流三大技法)合気柔術恒元会」の伝位(伝承の段階)と技法内容について、分類整理し概括した。(表2参照)

表2 伝位と教伝課程

Table 2. The grade-system and training courses

一般	専門	練習期間	年齢	教伝課程
伝位	7級 1級	3ヶ月以上	15歳以上	・礼儀作法 ・大東流「合気柔術」 久琢磨伝初伝技 ・柔術史
	初段	2年以上		・同久琢磨伝中伝技 ・同奥伝技 ・大東流「柔術」 秘伝目録
	貳段	4年以上		・日本伝(大東流三大技法) 合気柔術 鶴山晃瑞伝初伝・中伝・ 奥伝技及び教外別伝
	参段	6年以上		
	四段 拾段	代理教授 師範	40歳以上	・日本伝(大東流三大技法) 合気柔術鶴山晃瑞伝秘伝技 ・大東流「合気之術」鶴山晃瑞伝

3.4 クドバス・チャートの作成及び単元設定

現在、大東流柔術を練習中である中学生及び社会人初心者延べ6名を選び、中学生が何をできて、知っていればよいのか、カード各30枚に記入し、記入後に一度集合して分類整理してクドバス・チャートを作成した。さらに、これを基にして単元項目を設定し、単元ごとの時間配分を行った。(図1~3参照)

3.5 技能分析表に基づく映像教材の作成

以上の結果に基づき学習の単元項目を設定し、技能分析表(図4参照)を基にして教材用の映像をビデオカメラで撮影し、パワーポイント(以下、「PPT」という。)の利用による試用版映像教材CD-R(PPT61シート)を作成した。(図5~10参照)以下に、技能分析表の一部分とPPTシートを6枚紹介する。白枠で囲った部分が動画であり、自動的に作動しかつ、動画が拡大したり、文字のアニメーションによる解説が現れ消えたりするなど工夫が施されている。なお、PPT全体の内容構成については、本稿末に一覧

仕事	能力-1		能力-2		能力-3		能力-4		能力-5		能力-6	
	1-1	1-2	1-1	1-2	1-1	1-2	1-1	1-2	1-1	1-2	1-1	1-2
礼儀を守る。	正面より礼が正しくできる。	立礼が正しくできる。	自分で進歩を著すことができる。	練習をとおして、相手を思いやることができる。	膝を伸ばして、手を握る際に、手関節をゆるめることができる。	先ずや相手の人の指先に視線を向かせることができる。	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6
合気基本技法を行う。	合気上げの原理を知っている。	合気上げの基本動作を単独でできる。	合気上げの基本動作と二人相対動作で正しくできる。									
木刀で柔振りをする。	爪先立ちで立ったまま、木刀の柔振りが正しくできる。	足も姿勢で前後に足しながら木刀で柔振りができる。	その場で膝が前向きに振りながら木刀で柔振りができる。	膝を屈しながら前後に足しながら木刀で柔振りができる。								
膝行の崩きの練習をする。	膝行の崩きの練習を知っている。	膝行で前進が正確にできる。										
受け身を取る。	前回り受け身ができる。	後ろ受け身ができる。	四方受け身ができる。	前受け身ができる。								
転身の相対動作・組形を行う。	転身の相対動作による転身の組形ができる。											
一方投げを行う。	立ち技で相手側の片手取りに対して一方投げの組形が正しくできる。											
四方投げを行う。	四方投げの基本動作が正しくできる。	片手取りに対して四方投げの組形が正しくできる。										
小手返しを行う。	小手返しに対して空に転身し、小手返しに投げることが正しくできる。											

図1 クドバス・チャート

Fig. 1. A Chart by CUDBAS

一か条の基本形を行う。	四方投げを行う。	転身の相対動作・組形を行う。	小手返しを行う。
合気基本技法を行う。		受け身を取る。	木刀で柔振りをする。
礼儀を守る。			

図2 単元項目

Fig. 2. The item about all units

	1級	2級	3級	4級
合気基本技法を行う。	合気上げの原理を知っている。	合気上げの基本動作を単独でできる。	合気上げの基本動作と二人相対動作で正しくできる。	合気上げの基本動作と二人相対動作で正しくできる。
60	20	10	20	10

図3 一単元の時間割

Fig. 3. Timetable for one unit

名称	動作	動作のキーワード	動作の科学
1. 合気上げ	両手を肩に幅広にする 肘の角度を90°にする 掌をバスケットボールを描くように広げる 手を前後に振る	肩の力は強く肘には入れないで、固定する意識を持つ フアの取。手を描く程度の力を入れる 肩を中心にして振り運動をする 掌以外の力を強く掌を少しだけ回転させる	上げるときは腕が口に入る角度にする 下げるときは口のお腹の水を描くようにおろす
2. 二人合気上げ	二人が座って向き合う 両者は両手を前に出す 相手が両手の手を思いっきり握る 両者が手を前後に振る	膝がこぼれ一つはど替れる膝がこぼれ一つはど替れる 相手が握んだ手だけに力を入れる 肩の力は強く肘は柔らかくする 両者は握られた手首にだけ力を入れる 握り手のように自然に振る	余分なところに力を入れると動きが鈍くなる さっと思を抜いて、肩を落とす 力をいれず前後に反動で動かす

図4 技能分析表(一部分)

Fig. 4. A part of skill analysis table



図5 PPT第1シート

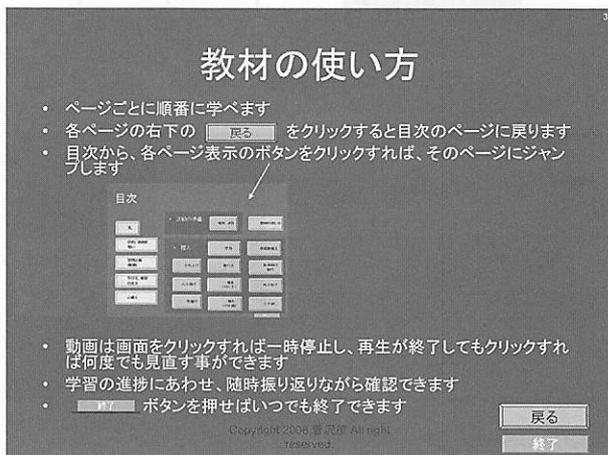
Fig. 5. The 1st sheet of PPT

図6 PPT第3シート

Fig. 6. The 3rd sheet of PPT

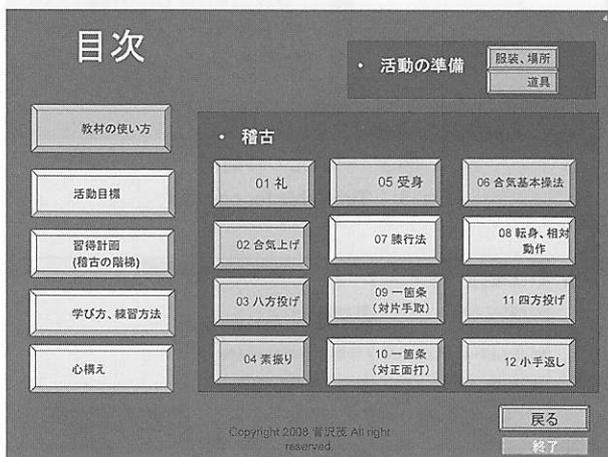


図7 PPT第4シート

Fig. 7. The 4th sheet of PPT



図8 PPT第16シート

Fig. 8. The 16th sheet of PPT

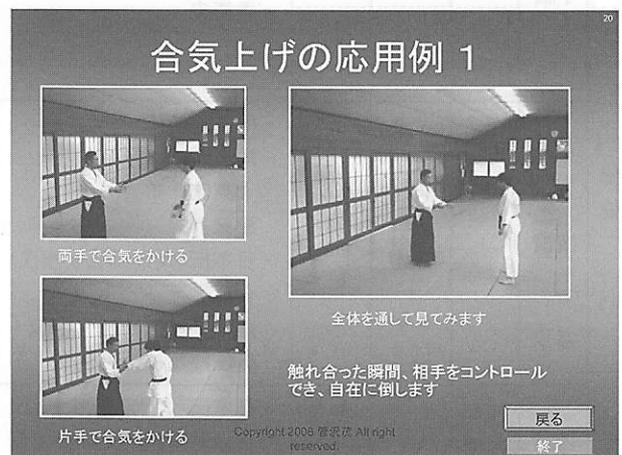


図9 PPT第20シート

Fig. 9. The 20th sheet of PPT

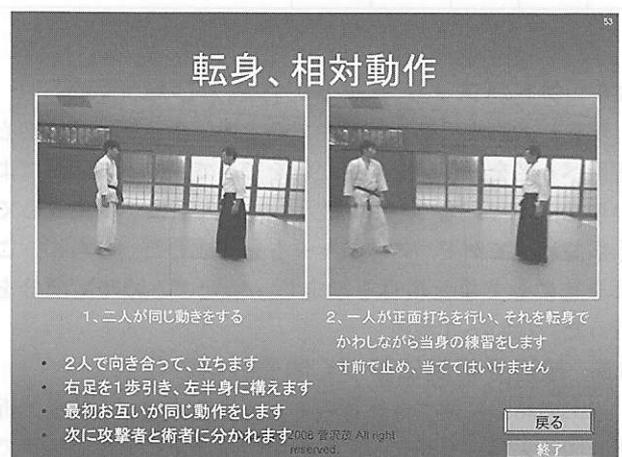


図10 PPT第53シート

Fig. 10. The 53th sheet of PPT

表にまとめて明らかにした。(表11参照)

3.6 アンケートによる映像教材の評価

(1) 評価方法

調査用紙又は電子ファイルの回答によるアンケート調査

で行った。アンケートの依頼は、大東流柔術の1～5年程度の経験者15名を対象に行ない、そのうち10名の回答があった。回答者10名の年齢構成は、20～50歳程度である。今回の映像教材は試用版であることから、まず大東流柔術

の経験者による評価を行なった。2008年度はその結果を踏まえて教材を精査更新した上で、さらに中学生・高校生対象にアンケート調査を行い、教材の完成をめざすこととした。

アンケート内容は、多肢選択による評価と自由記述による意見、感想、改善点、要望とからなっており、その項目は表3のとおりである。なお、アンケート本文については、本稿末の表12に示すことにする。

表3 アンケート項目
Table 3. The item of a questionnaire

- 1 映像教材 [「日本伝大東流合気柔術 2007」] の下記テーマ01～12について、4点法及び自由記述で回答を求めた。
 - <内容全般>
 - <取扱方法>
 - <ご意見・ご感想・改善点 (自由記述)>
 - 01: 礼
 - 02: 合気上げ
 - 03: 八方投げ
 - 04: 素振り
 - 05: 受身
 - 06: 合気基本操法
 - 07: 膝行法
 - 08: 轉身, 相對動作
 - 09: 一箇条 (対片手取)
 - 10: 一箇条 (対正面打)
 - 11: 四方投げ
 - 12: 小手返し
 - 全体を通しての意見・感想・改善点 (自由記述)
- 2 本教材難易度 (自由記述)
 - 中学生にとっての難易度
- 3 その他, 意見・要望 (自由記述)

(2) 評点による評価

映像教材「日本伝大東流合気柔術 2007 (試用版)」のテーマ01～12について、「内容全般」と「取扱方法」に分けて、大東流柔術経験者に対して評点による評価を試みた⁷⁾。また、各テーマの意見、感想を自由記述で求めた。(「内容全般」についての評価)

「内容全般」について、「①とても参考になった」(4点), 「②参考になった」(3点), 「③あまり参考にならなかった」(2点), 「④参考にならなかった」(1点), の4つの選択肢で答えさせた。各テーマの合計得点は、表4のとおりである。合計得点の平均点は、34.08であることから、平均値25に比べると、おおむね高い評価がなされたものといえよう。「02: 合気上げ」が37で最も評価が高く、「09: 一箇条 (対片手取)」が36、「03: 八方投げ」35と続いている。「07: 膝行法」が32で最下位となっている。「02: 合気上げ」「09: 一箇条 (対片手取)」「03: 八方投げ」は、共に多角度から撮影した動画や静止画が豊富に盛り込まれ、かつ細

かい動作を多展開の静止画を基に、分かりやすい解説に努めている。一方、「07: 膝行法」はPPT2シートだが、2枚

表4 「内容全般」の評価得点
Table 4. The evaluation score of "contents at large"

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	得点
01: 礼	4	4	3	3	4	4	3	3	2	3	33
02: 合気上げ	4	4	4	3	4	4	4	4	3	3	37
03: 八方投げ	4	4	4	3	4	4	4	3	2	3	35
04: 素振り	4	3	4	3	3	4	3	4	3	3	34
05: 受身	4	4	4	3	3	2	3	4	2	4	33
06: 合気基本操法	4	4	4	3	2	3	4	4	3	3	34
07: 膝行法	4	4	4	2	3	3	3	4	2	3	32
08: 轉身, 相對動作	4	4	4	3	4	3	3	3	3	3	34
09: 一箇条(対片手取)	4	4	4	3	4	4	4	3	3	3	36
10: 一箇条(対正面打)	4	4	4	3	4	3	4	2	3	3	34
11: 四方投げ	4	4	4	3	4	3	4	2	3	2	33
12: 小手返し	4	4	4	3	4	3	4	2	3	3	34
平均値	4.0	3.92	3.92	2.92	3.58	3.33	3.58	3.17	2.67	3.0	34.08

表5 「取扱方法」の評価得点
Table 5. The evaluation score of the "handling method"

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	得点
01: 礼	4	3	3	3	4	2	3	3	3	4	32
02: 合気上げ	3	3	4	2	4	3	4	4	3	3	33
03: 八方投げ	2	4	4	3	4	3	4	3	2	2	31
04: 素振り	4	4	4	3	3	4	3	3	3	4	35
05: 受身	4	4	4	3	3	2	3	4	3	4	34
06: 合気基本操法	2	4	4	3	2	2	4	4	2	4	31
07: 膝行法	3	4	4	2	3	4	3	4	2	3	32
08: 轉身, 相對動作	3	4	4	3	4	4	3	4	3	4	36
09: 一箇条(対片手取)	4	4	3	3	4	4	4	3	3	4	36
10: 一箇条(対正面打)	4	4	3	3	4	3	4	3	3	4	35
11: 四方投げ	4	3	4	3	4	1	4	3	3	2	31
12: 小手返し	4	4	4	3	4	2	4	3	3	4	35
平均値	3.42	3.75	3.75	2.83	3.83	2.83	3.58	3.42	2.75	3.5	33.42

目のシートは同一の動画を拡大して再掲したに過ぎず、解説文もあっさりとしており、微妙な重心移動などのコツが十分に表現されていない。このような点が低い評価につながったものと考えられる。

(「取扱方法」についての評価)

各テーマの合計得点は、表5のとおりである。「取扱方法」については、「08：転身，相対動作」「09：一箇条（対片手取）」が共に36で最も高い評価であり、「素振り」「一箇条（対正面打）」「小手返し」が35でこれらに続いている。一方で、「八方投げ」「合気基本操法」「四方投げ」が共に31で、最下位である。高く評価されたテーマを見ると、動画配列のバランスがよく複数の動画が始動するタイミングの設定がよくできている。これに対して、低く評価された項目を見ると、動画や静止画の展開が平板で分かりにくい印象を与えているのではないかと考えられる。

(自由記述回答による評価)

以下に、各テーマの内容や取扱に関して、自由記述回答による意見、感想について、その一部を列記する。各回答文の末尾に、その評価傾向を○、△、×で示した。

テーマ項目の02:「合気上げ」は「内容全般」で、08:「転身，相対動作」は「取扱方法」でそれぞれ評点法による最上位の評価を受け、07:「膝行法」は「内容全般」で最下位の評価となっている。おおむね評点による評価結果と自由記述による評価とが一致しているといえよう。(表6～8参照)

表6 自由記述 項目02:「合気上げ」
Table 6. Free description Item 02: "aikiage"

- A: 複数の熟達者の人のものが幾つか見られると、共通のエッセンスが読み取れてより分かりやすいと思う。△
- B: 合気上げの基本操法がよく分かった。肘の角度や、脇の開き具合がよく分かった。○
手の形が、初心者の方には分かりにくいと思う。×
- D: 「合気上げの動線1」の「掌の回転のしかた」のリンクが切れていた。×
「合気上げ～合気上げの動線」までの後ろからのアングルで、手の動きが見にくかった。△
「合気上げの練習方法」のアングルが見やすかった。○
- E: 形、動作を動画で見せているのでわかりやすいと思う。○
奥の深さ、拍子、タイミング、合気については実践しないとなかなかないので、教材としてはこのレベルでよいのではないかと。○
- F: 分かりやすかったと思う。○
欲を言えば、もう少し映像に気を配りたかったと思う。△
- G: 初歩の手ほどきが非常に重要であり、この点を詳細に説明していることが貴重である。○
- H: 動画の画質が悪い。×
- I: 応用編は参考になる。○

また、「全体を通しての意見・感想・改善点」については肯定的な評価が多数を占めており、「中学生にとっての難易度」については肯定よりも、否定的な見解が目立っているように考えられる。(表9～10参照)

4. まとめ

中学生対象の本映像教材、プログラムの妥当性について、アンケート結果をみると、概ね、その意義と役割が肯定的に評価されたものと考えられる。

課題としては、中学生の発達段階に即した単元内容と単元構成の工夫という点が最も重要である。アンケートの自由記述によると、学習者が初めてこの教材に接するのであれば、中学生はもとより一般成人においても戸惑うのではないかとする意見が散見された。また、中学生にとって果たしてPPTの操作が、どのくらいの負担となるものかなど、パソコン操作上の課題についても引き続き検証し、平易な操作を可能とする工夫が必要となろう。

今後は、試用版映像教材2007を中学生、高校生が実際に使用し、その評価をもとにして適切な内容構成と操作性

表7 自由記述 項目08:「転身，相対動作」
Table 7. Free description Item 08: "tenshin, sohtaidohsa"

- A: 全部畳の線上で行ってくれると見ている人がイメージしやすいと思う。△
- B: 順序立てて練習でき、体捌きも身に付く良い練習だと思う。○
特に足捌きは、とても参考になった。○
- E: 動きが上半身、下半身とならべて表示してあり、細部までわかりやすくてよい。○
- F: 足元をフォーカスした表現は分かりやすかったと思う。○
袴無しの映像もあっても良かったのではないかと。△

表8 自由記述 項目07:「膝行法」
Table 8. Free description Item 07: "shikkoh-hou"

- A: 袴で足の細かい運びや動きが見えにくいのが残念だ。△
- D: 全体を定位置で見せてから、部分を見せる方が分かりやすいと思う。×
- E: 演技者のゆらゆらした動きがいかに奥義を連想させるべくいいものだと思う。○
- G: 中高生の場合、発達途上の体躯であるため、指導する場合、形だけに捉われず、臍の下(丹田)の重心移動を意識させ、膝や股関節への無理な負担をさせないように、気を付けることも重要であると感じた。△
- H: 読みづらいので、ふりがなをつけてほしい。△
- I: 重心の移動方法等が分かりにくい。×
また、袴をはかない画像も必要と思う。△
- J: 膝を高く上げないことを注意させることが大事だろう。△
「戻る」ボタンを押しても目次に戻らない。×

表9 自由記述「全体を通しての意見・感想・改善点」

Table 9. Free description "The opinion, the comment, and the improving point"

- A: 直接指導をしていただいている者には大変参考になるが、全くの初心者とはつきにくいところがあるとも思う。△
- B: この教材の技法は、初心者から上級者まで大変参考になるものだと思う。○
特に合気基本練法は、年数を経てもうまくできないので、動きを覚え自習するのに良い。○この教材を繰り返し練習することで、合気柔術の動きを身につけることができると思う。○
- C: 転身と同様の運足図が、各技にあるとわかりやすいかと思う。△
何らかの武道等経験者にはわかりやすい内容かと思う。○
- D: 一つ一つ切り取って解説するのは難しいところを、簡潔に分かりやすく説明していると思う。○
重要なことではないが、レイアウトや語尾、解説の方法を統一すればより良い教材になると思う。△
教材としてどこまで見せるかによるが、カメラアングルの工夫が必要であると考え。△
- E: かなり細部を映しているので奥義の漏えいが心配である。△
- F: 映像表現について、途中にアップのカットを挿入するなどの演出があっても良かったのではないかと思う。△
- G: 初歩でありながら、最も重要な確信部分が詳細に解説されており、従来の体術の教材ではあり得ない画期的なものであると考える。○
故に、中高生のみならず、今回の教材を用いて適切に指導された受講生は、知らないうちに、柔術の素地ができ、かつ人との関わり方に変化が生まれると考える。○
- H: 残心や手刀など、用語注釈をつけてもらいたい。×

表10 自由記述「中学生にとっての難易度」

Table 10. Free description "Difficulty for a junior high school student"

- A: 分かりやすい。○
- B: 基本的な動きをわかり易く解説してあると思う。○
合気をかけて投げる八方投げなどは、とても難しい技術ではないかと感じている。×
合気道のように接触したときに合気がないものではなく、合気を入れ全ての技法に入るのは、直接感じ取るものだと思う。×
- C: 中等度かと思う。△
ただ、全くの未経験者には、各技の難易度は高いように思う。×
- D: 入門編として適度な難易度だと思う。○
- E: やはり、より理解を深めるには、実践が必要だと思う。△
- F: 四方投げ、小手返しなどの部分では初心者には少し分かりにくいのでは、と感じた。×
合気上げについては、噛み砕いた表現で分かりやすいと思う。○
全体としては、入門者よりもしばらく学んだ人間が、自分の理解している内容と比較するような、やや中級者向けのようにも思う。×
- G: 集団に対して教材を用いる場合、個人差が出るため、画一的な指導が難しくなると考える。このため、指導者の適切な判断と指導が重要になるとともに、指導者の補助者も出来る限り配置することが好ましいと考える。個人差、即ち、それが多様性であり、受講生が望む限り、指導法を絶えず検討・精査することを指導者が怠らなければ、安易に受講生が増長したり、落伍することがないと考える。これは、指導者の姿と鏡面関係にあると考えている。△
- H: 動画があるので、わかりやすい。○
- I: やさしく分かりやすい内容だと思う。○
- J: 概して中学生でもよく分かると思う。○

能に更新するとともに、高等学校用及び一般向け教材を開発したい。これに当たっては、中学校用教材の開発経過から見て以下の問題が予想され、これらに対する配慮が必要となろう。

- ①対人による学習指導後の自習用教材の開発
- ②内容構成が増えるため CD-R から DVD-R への切り替え
- ③教材に即した指導者用マニュアルの開発
- ④指導者用マニュアルに基づく指導者の養成

参考文献

- 1) 梅原猛,『日本文化論』, 講談社学術文庫, pp.34-50, (1992)
- 2) 中央教育審議会初等中等教育分科会「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」(2007)

- 3) 菅沢恒元,『三大技法に学ぶ 日本伝大東流合気柔術』第1巻, BAB ジャパン出版局, pp.20-27, (2006)
- 4) 森和夫,『技術・技能伝承ハンドブック』, JIPM ソリューション, pp.54-74, (2005)
- 5) 新渡戸稲造,『武士道』(矢内原忠雄訳), 岩波文庫, pp.80-81, (1970)
- 6) 文部科学省,『中学校学習指導要領解説 保健体育編』, 東山書房, p.55, (2006)
- 7) 菅沢茂,「CD-ROM教材の教育現場における活用とその評価」(科学研究費補助金(基盤研究(B)18300263, 2006~2008)に基づく研究, 研究分担者),『東京農工大学 大学教育ジャーナル』第3号, pp.35-52, (2007)

(2008年5月26日受付)

表 11 教材項目・内容等 (2008年5月現在)

Table 11. The item, the contents, etc. of teaching materials (as of May, 2008)

項 目	内 容	文章解説	動画数	動画の展開	静止画数
「はじめに」	①: 合気の魅力, 楽しみ	○			
	②: 教材の使い方	○			1
	③: 目次 (イラスト含む)	○			
	④: 服装, 場所	○			2
	⑤: 道具	○			1
	⑥: 活動目標	○			
	⑦: 習得計画 (稽古の階梯)	○			
	⑧: 学び方, 練習方法	○			
	⑨: 心構え	○			
01: 「礼」	①: 座礼	○	1		
	②: 立礼 (イラスト含む)	○	1		
02: 「合気上げ」	①: 合気上げで何が出来る?	○			
	②: 「合気上げ」の動作	○	2		
	③: 合気上げの動線 1	○	1	1	5
	④: 合気上げの動線 2	○			8
	⑤: 合気上げの練習方法 1	○	1		1
	⑥: 合気上げの練習方法 2	○	1		
	⑦: 合気上げの応用例 1	○	3		
	⑧: 合気上げの応用例 2	○	1		
03: 「八方投げ」	①: 八方投げの形 (かた)	○	1		
	②: 八方投げの解説	○			8
	③: 八方投げの動作	○	1	2	
04: 「素振り」	①: 木刀による素振りの動作	○	1		
	②: 素振りの解説	○	1	1	
05: 「受身」	①: 受身の動作 (前転・後転)	○	2		
	②: 前転受身の練習方法	○			6
06: 「合気基本操法」	①: 基本操法 1 手首回しの動作	○	1		
	②: 手首回しの解説	○	1		
	③: 膝を使った手首回し	○	1		
	④: 猫手の手首回し	○	1		
	⑤: 基本操法 2 八の字の動作		1		
	⑥: 基本操法 3 つかみ手の動作		1		
	⑦: 基本操法 4 不動の動作		1		
	⑧: 基本操法 5 合気呼吸体操	○	1		
07: 「膝行法 (しっこうほう)」	①: 膝行法の動作	○	1		
	②: 膝行法の解説	○	1		
08: 「転身, 相対動作」	①: 転身, 相対動作	○	2		
	②: 転身, 相対動作の解説 (イラスト含む)	○	2		
09: 「一箇条(いっかじょう) 対片手取」	①: 1 箇条対片手取	○	1		
	②: 一箇条の解説 (形) 1	○			6
	③: 一箇条の解説 (形) 2	○			8
10: 「一箇条(いっかじょう) 対正面打」	①: 1 箇条 (対正面打) 1	○	1		
	②: 1 箇条 (対正面打) 2	○			3
	③: 1 箇条の解説 1	○	1		
	④: 1 箇条の解説 2 (形)	○			9
11: 「四方投げ」	①: 四方投げの動作	○	2		
	②: 四方投げの解説	○	1		
12: 「小手返し」	①: 小手返し of 動作	○	1		
	②: 小手返し of 解説	○	2		
「おわりに」	○: 何度も繰り返し練習しましょう				

※○数字は PPT のシートを示す。

表 12 2007 年度実施アンケート用紙

Table 12. The paper of the questionnaire in the 2007 fiscal year

アンケートへのご協力をお願いします！（経験者対象）両面印刷

当研究会では、現在、中学高校生を対象として「古典柔術技能に関する映像教材」（古武道編①「日本伝大東流合気柔術 2007 試用版」）の内容を改訂しています。このため、やわら経験者の皆さんから自由なご意見や感想をいただき、よりよいものになりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。（日本伝統文化教育研究会 代表 菅沢 茂）

おなまえ：_____ 経験年数：約 _____ 年

1 映像教材「日本伝大東流合気柔術 2007」の中で、次の項目について意見・感想をお聞かせ下さい。

各項目の、「内容全般」及び「取扱方法」の [] の中に、以下の該当する番号をご記入ください。
 <内容全般>①とても参考になった ②参考になった ③あまり参考にならなかった ④参考にならなかった
 <取扱方法>①とても分かりやすい ②分かりやすい ③少し分かりにくい ④分かりにくい

01：礼

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

02：合気上げ

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

03：八方投げ

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

04：素振り

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

05：受身

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

06：合気基本操法

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

07：膝行法

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

08：転身、相対動作

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

09：一箇条（対片手取）

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

10：一箇条（対正面打）

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

11：四方投げ

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

12：小手返し

●内容全般 [] 取扱方法 [] ●ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

●全体を通して、ご意見・感想・改善点などをお聞かせください。

2 本教材の難易度（むずかしさ・やさしさ）についてお聞かせ下さい。

3 その他、意見や要望がありましたらお聞かせ下さい。

<お願い>

○アンケートは、sugasawa1653@yahoo.co.jp（菅沢）までメール添付、又はプリントしたものを、5月1日にいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。